



戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期

スマートモビリティ・プラットフォームの構築

【サブ課題1】モビリティサービスのリ・デザイン

ナラティブで編まれる地域交通コミュニティ形成と 人材育成プログラム

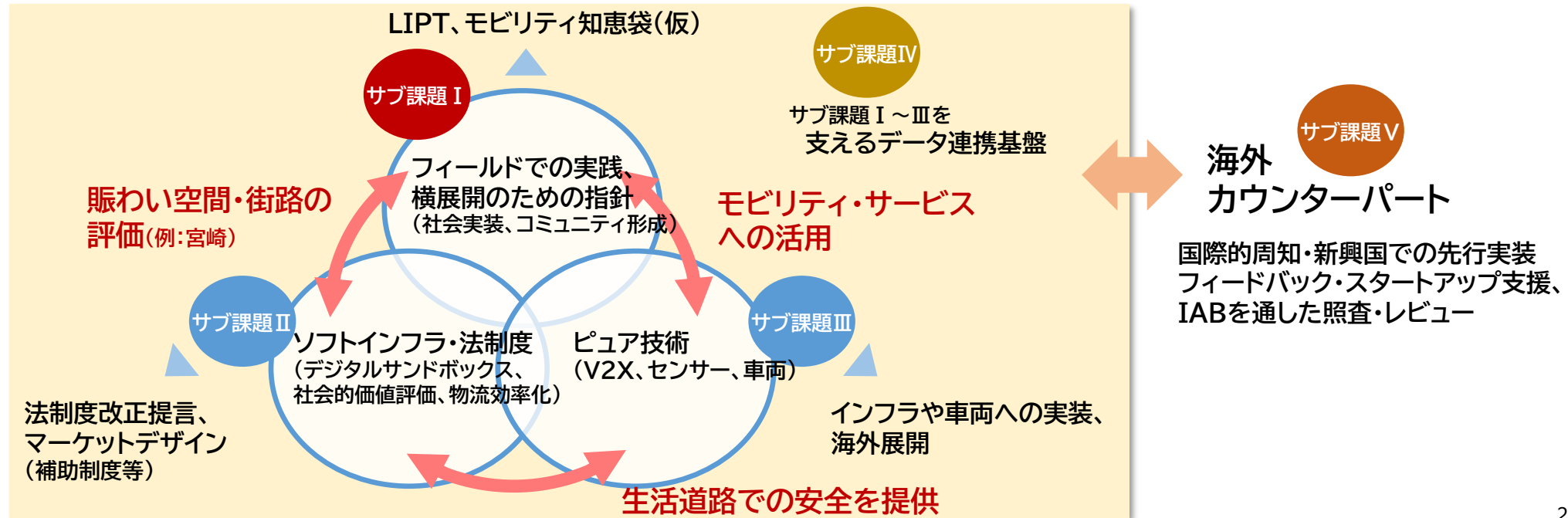
筑波大コンソ

1-1 スマモビ全体のビジョンとサブ課題の構成

【全体ビジョン】 ★自由に自立して安全・快適に環境・人・まちに優しく、皆が、モノが、サービスが移動できるモビリティディバイドのない社会			
● 利便性が高く、持続可能なモビリティ・サービスが提供される社会	◆ 安全・安心・快適で多様なコミュニティが形成される社会	◆ まちづくりと移動サービスが連携された社会	■ 物流システム全体を組み込んだ物流MaaSサービスが提供される社会

社会環境の変化
人口減少 少子高齢化 DX技術の進展

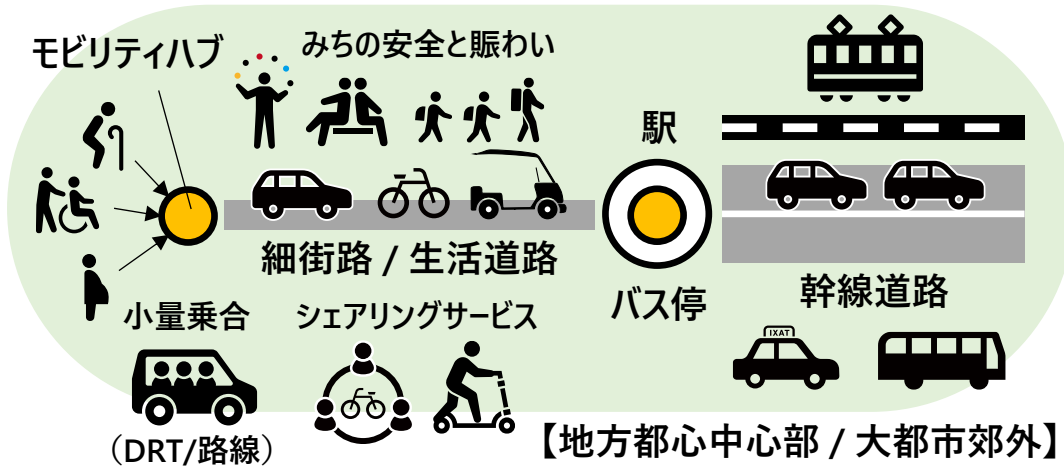
ビジョンに対する社会課題			
【移動サービスの維持・確保】 ・地方のモビリティ・サービスの存続危機 ・地域公共交通を支援するビジネスモデルや諸制度が硬直、連携不足	【人・車・モノの流れの適正化】 ・生活道路への通過交通による事故発生、賑わいの喪失、コミュニティ衰退 ・物流業界の人依存と持続可能性低下	【交通安全の確保】 ・重大事故の発生 ・高齢者などの移動性低下	【データの連携・活用】 ・実用的なデータ連携基盤の不足 ・未成熟なデータコミュニティ



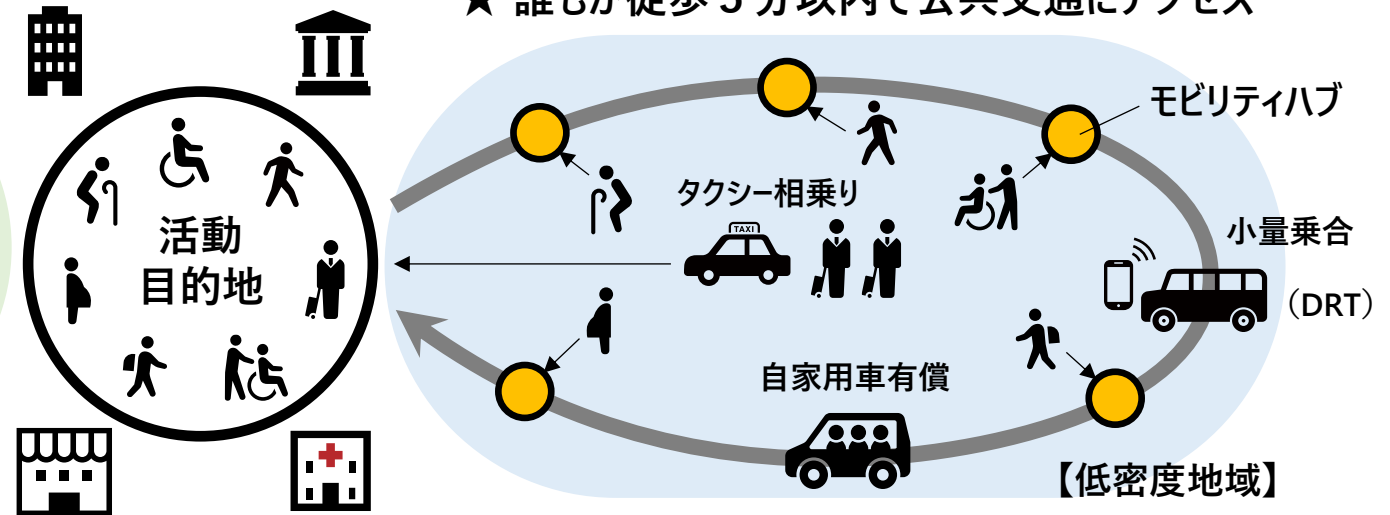
1-2 サブ課題 | 全体のビジョン

- ① 安全で自立的な移動を実現し、地域の課題解決に資するモビリティ・サービスの提供
- ② モビリティディバイドのない、持続可能で賑わいのある地域づくりへの貢献

★ 誰もが安心・安全にゆっくり歩ける空間



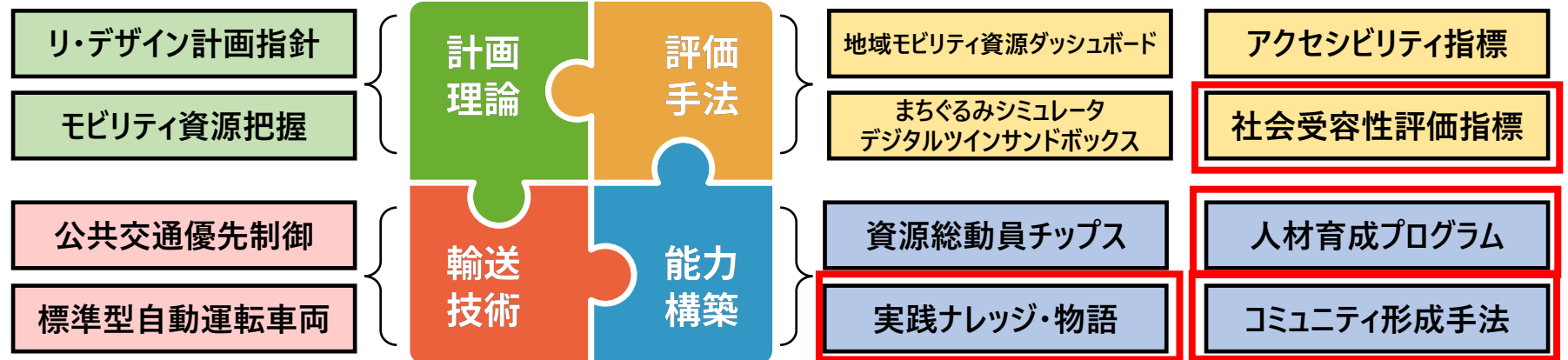
★ 誰もが徒歩 5 分以内で公共交通にアクセス



【リ・デザインのプロセス】



ビジョニングとバリデーションの強化・実質化等



1-3 サブ課題 | 全体の戦略

モビリティ・サービスの成熟度 (XRL)



【検証フェーズ】

各モデル地域において
研究開発成果の
実質的な貢献を検証

高質空間の創出と
評価手法の構築および
計画論の体系化



(宮崎市)



サンドボックスを活用した
まちづくりにおける
協働と合意形成



(東広島市)

モビリティハブを核とした
モビリティ・サービスの高度化
および評価指標の開発



(西尾市)

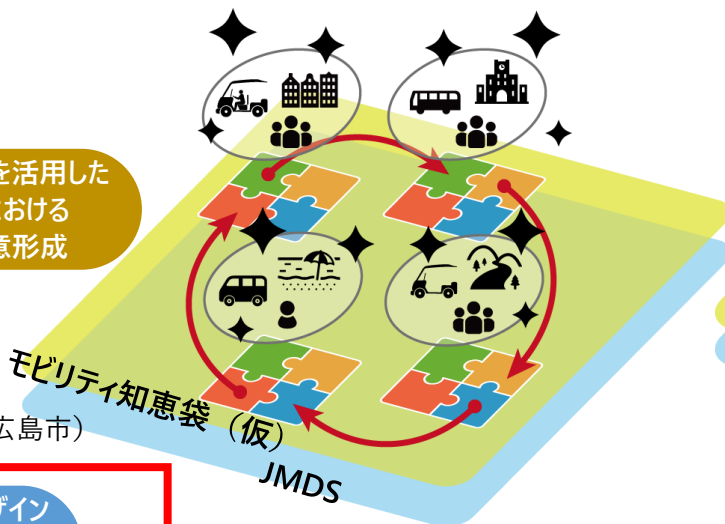
地域交通のリ・デザイン
における人材育成と
コミュニティ形成の実践



(十和田市)

【共有・共進化フェーズ】

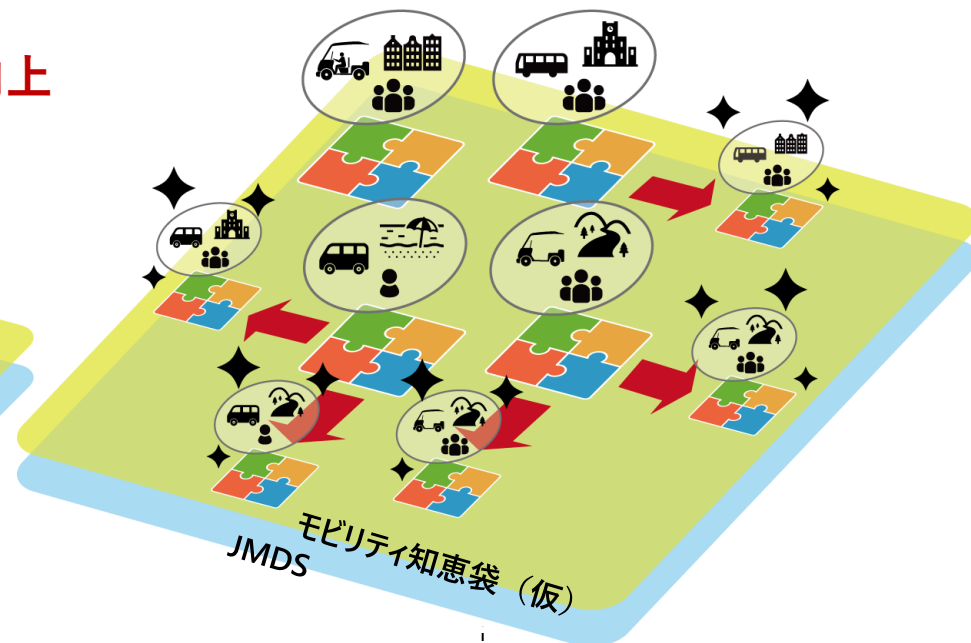
プラットフォームを介して
各コンソの成果が相互に共有され、
各モデル地域における
モビリティ・サービスの質や持続力が向上



SIP 終了時
(FY27)

【拡大・展開フェーズ】

プラットフォームの拡大とともに
SIP の成果が他地域で活用され、
持続可能なモビリティ・サービスの
リ・デザインが面的に進展

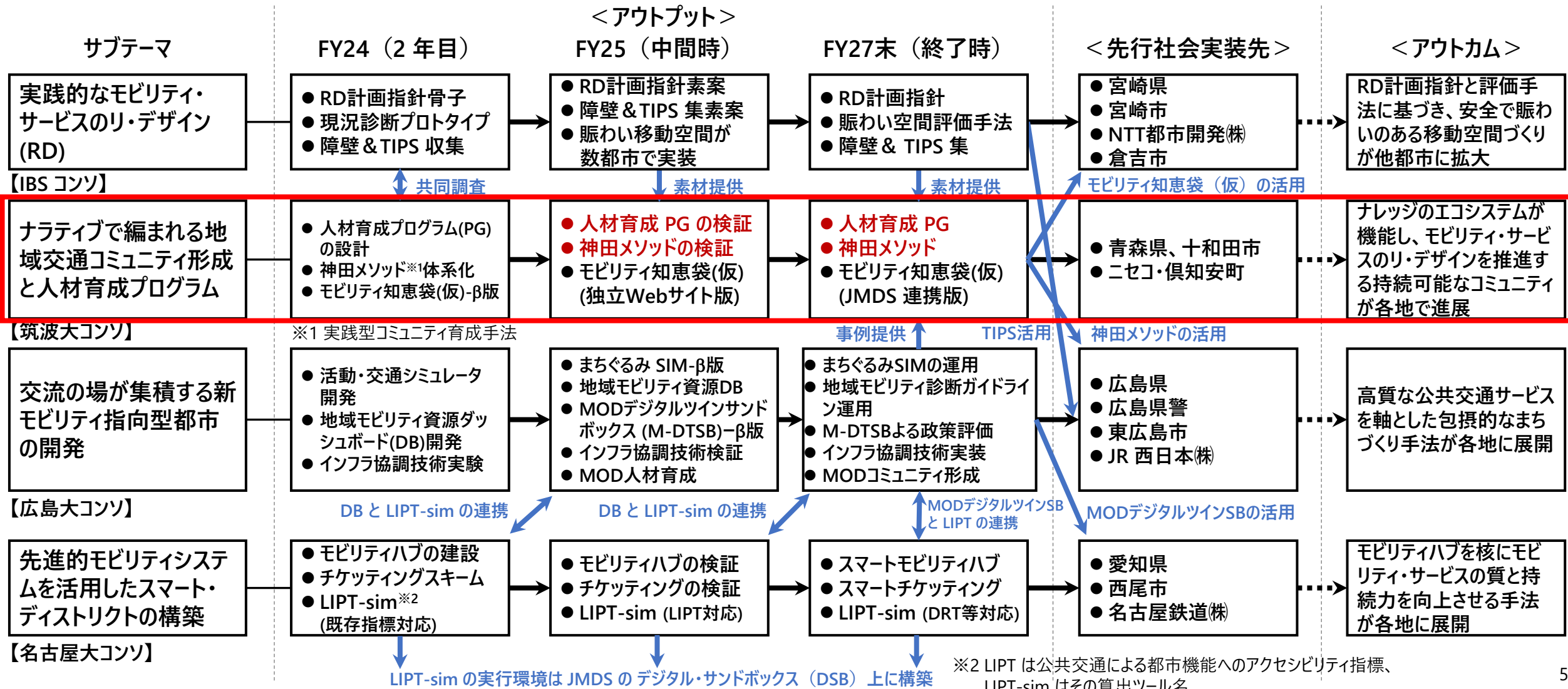


SIP 終了後
(FY28 以降)

ステージゲート
(FY25)

1-4 サブ課題 | 全体のロードマップ

- 【ビジョン】 ① 安全で自立的な移動を実現し、地域の課題解決に資するモビリティ・サービスの提供
 (再掲) ② モビリティデバイドのない、持続可能で賑わいのある地域づくりへの貢献



2-1 研究開発の全体構造

研究開発の 全体構造

大テーマ

地域交通の

人材育成 & コミュニティ形成

タスク

人材育成とコミュニティ形成の

仕組みづくり & 社会実装

対象の定義

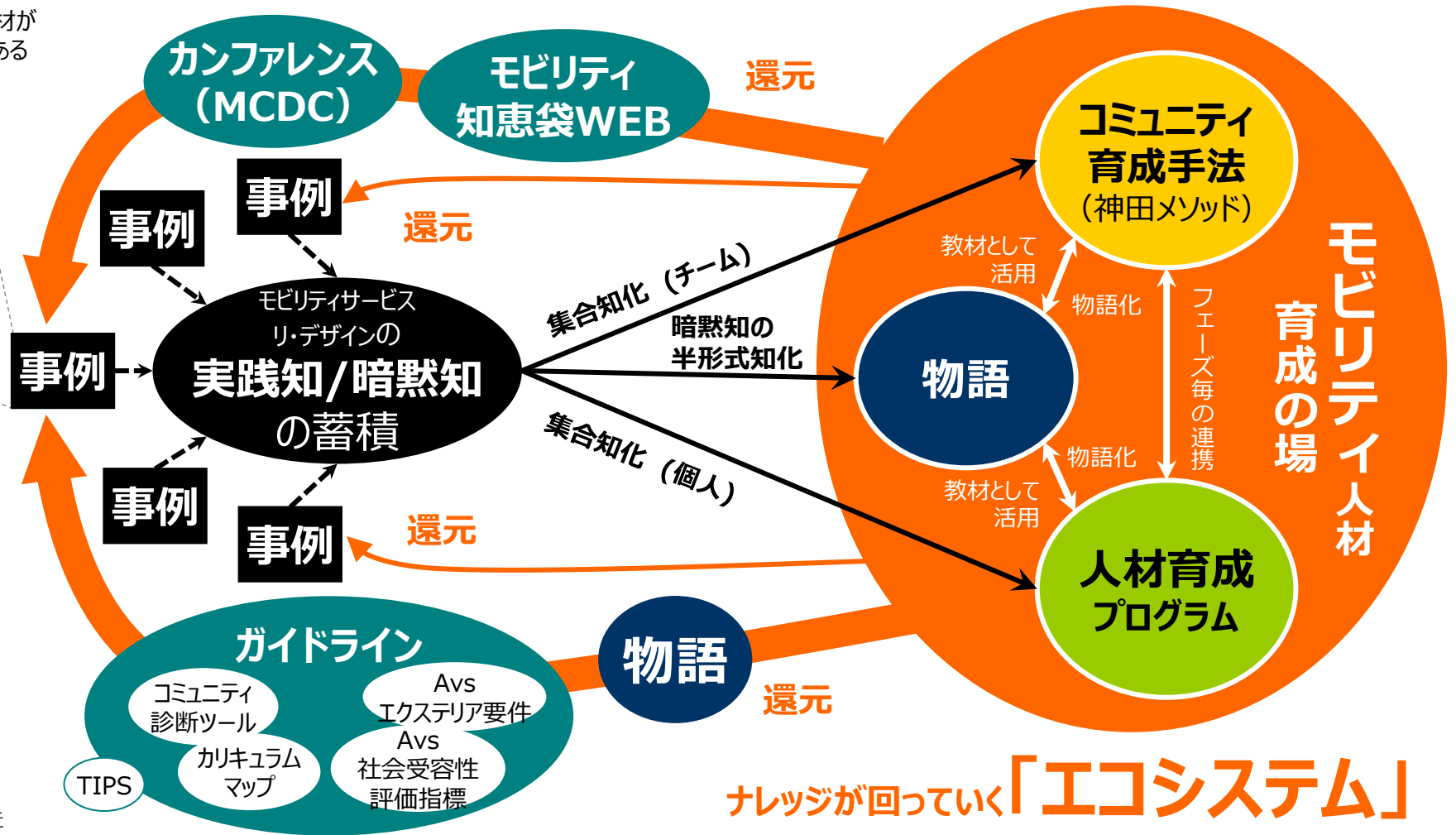
人材 地域内で活動する個人
(例：庄原商工会議所 本平専務理事)

チーム 同じ目的意識をもって活動する仲間
(例：庄原MaaS検討協議会)

コミュニティ 特定の地域内で活動するステークホルダー
(例：市民・民間事業者・役場・来訪者・外部関係者)

2-1 研究開発の全体構造

個々の事例にコミュニティと人材が存在し、実践知と暗黙知がある



ナレッジが回っていく「エコシステム」

将来的にはJICA等と連携し、この「エコシステム」を
東南アジア・中南米等のコミュニティとも共有・共創していくことを目指す

ナレッジの種類と定義

- 1) 知識：データ、論理的、無感情 ■ IBS
 - 2) 知恵：経験含む、論理、知識をどう使うか ● 筑波大 ■ IBS
 - 3) 物語：感情を伝える、心に訴えかける ● 筑波大
- ※別の言い回し例：論理(知恵)、論拠(データ)、情理(物語)

言葉の定義

- 形式知(明示的知識)：「客観的に捉えられる知識」「言葉や数式などの論理的構造で説明できる知識」 データも含まれる。
- 暗黙知：経験や勘といった言語化が難しい主観的な知識：ex)このまちではあの人にお伺いを立てないと、ex)職人技、タクシードライバーが客をつかまえる勘
- 集合知：ある共通の目的達成のために知を蓄積し活用すること。近年はWEBを使った集合知の活用事例が増加。ex)いろんな事例を集めて眺めて共通項を抽出するなど抽象化、一般化、体系化された知識・知恵。
- 実践知：実践の場で適切な判断ができる能力。理論的にうまくいかないことでも、その場の判断でうまくやる能力。ex) アドリブ力、長嶋茂雄、臨機応変なリソース活用能力

2-1 研究開発の全体構造

研究開発の全体構造

< 問題意識 >

< 研究開発 >

< 提供価値 >

コミュニティ
育成

コミュニティの現状分析ができていない

01 神田メソッド

コミュニティの成熟フェーズを判別でき適切なアプローチで先に進める

ひとりで学んでもコミュニティを動かせない

02 カンファレンス (MCDC)

チームで学ぶことでコミュニティ開発を効果的に進めることが可能になる

どんな人材が必要かわからない

03 地域交通人材像

コミュニティの成熟段階に応じた適切な人材活用が可能になる

人材育成

どのプログラムを受講すべきかわからない

04 カリキュラムマップ

適切なプログラム受講により効果的な人材育成が可能になる

適切な教材やツールを見つけられない

05 モビリティ知恵袋

一元化管理共有により教材活用が効率化かつ相乗効果が見られる

コンテンツ
制作

コミュニティ診断ツール

社会受容性評価指標

物語 (ナラティブ)

知見を搭載

2-2 各研究開発テーマのロードマップ

● 動かす人・コミュニティに着目したナレッジやエコシステムを構築し、自立的・発展的な地域課題解決を促す環境・土壌を創出



01 神田メソッド

問題意識

コミュニティの現状分析ができていない
(どの成熟フェーズで何に躓いているか)

研究方向性

コミュニティの成長仮説を構築し、
コミュニティ育成の方向性を実践検証
(神田メソッド)

SiPでの開発内容



- ・神田メソッド素案開発 (庄原)
- ・他地域での水平展開試行
(奥入瀬・ニセコ)

SiPにて
新たに神田メ
ソッドを構築し、
水平展開を
試行中

2-3 研究開発の進捗／神田メソッド

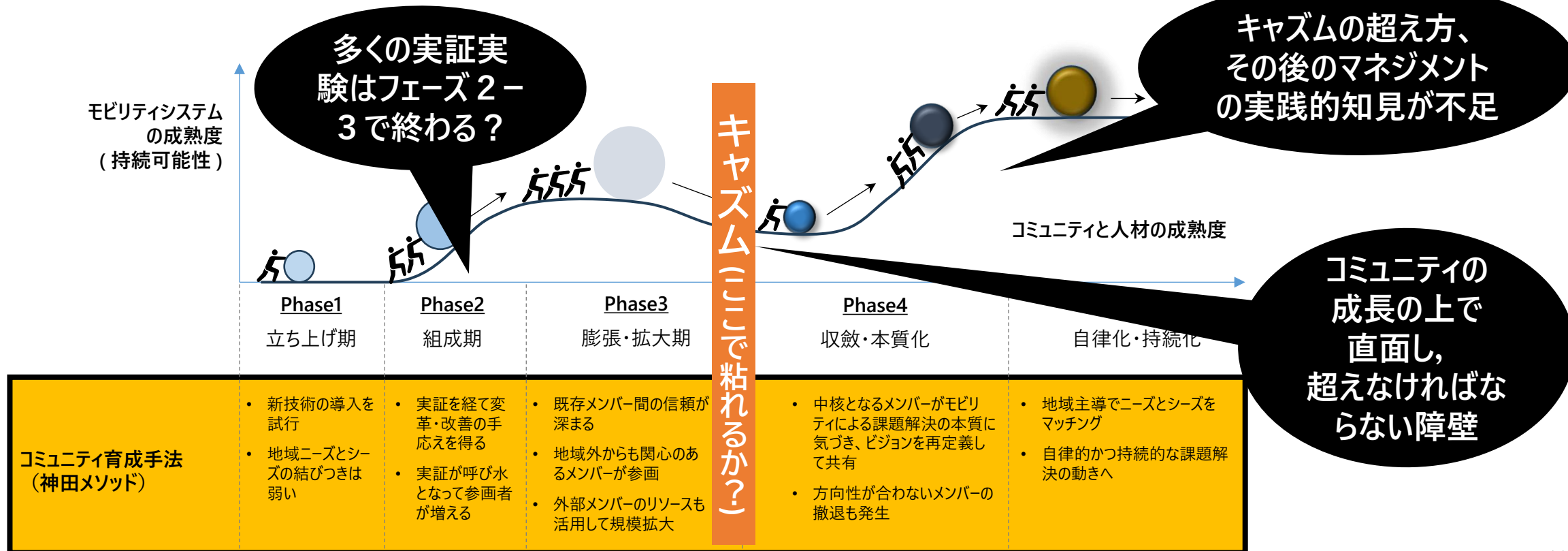
神田メソッド：仮説構築

●モビリティプロジェクトの成長プロセスの仮説

- 地域の課題解決（ニーズ）を解決に導く新たなモビリティ技術（シーズ）の社会実装に向けては、コミュニティの成長プロセスに応じたマネジメントやディレクションが必要となる。
- このプロセスを、これまでのモビリティプロジェクトでの実践や現在進行中のモビリティプロジェクト（プレーヤーとして携わる）をレビューし、SIPプロジェクトで成長仮説を構築

→ステークホルダーの多さから、時期、アプローチが不透明になる時期（キャズム）があり、ここを乗り越えられずに終了するプロジェクトが相当数ある。

→その上で、社会実装に向けて「道標」が重要であり、本成長プロセスは社会実装までの道標を示すもの。



2-3 研究開発の進捗／神田メソッド

神田メソッド：仮説構築

● 広島県・庄原地区でのコミュニティの進展経緯

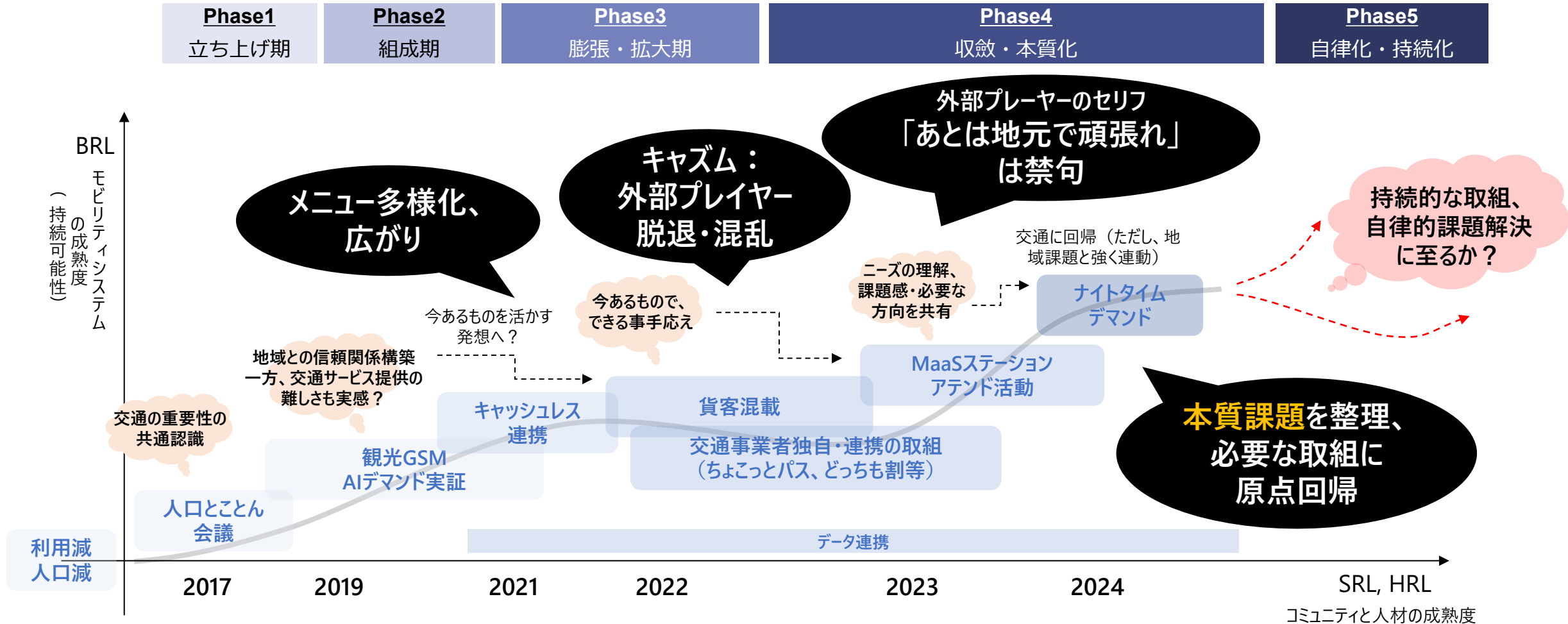
- 既に進行中のプロジェクトにプレイヤーとして主体的に参画し、特に実践知見の蓄積が少ないPhase3～5までのコミュニティ育成手法を実践検証



2-3 研究開発の進捗 / 神田メソッド

神田メソッド：仮説構築

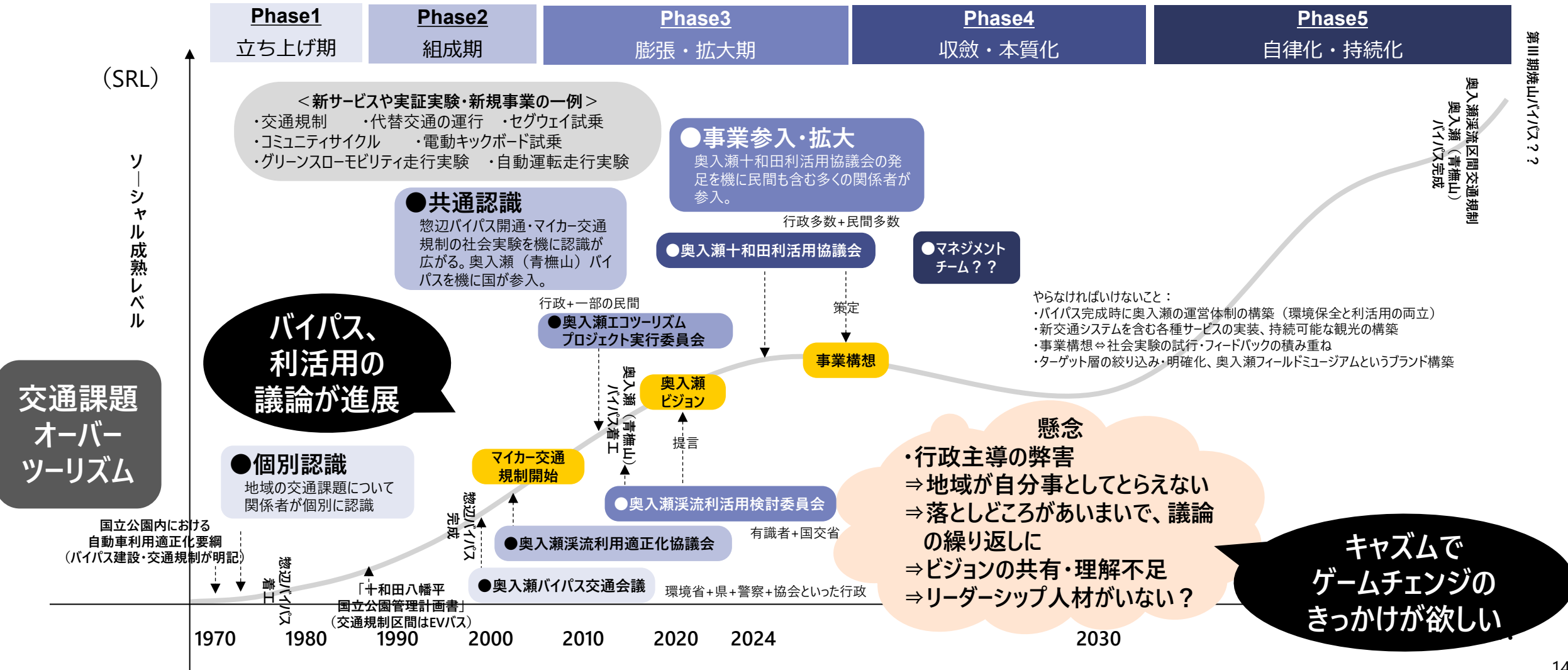
● 広島県・庄原地区の経緯整理



2-3 研究開発の進捗 / 神田メソッド

奥入瀬
(長期)

神田メソッド：他地域での試行



2-3 研究開発の進捗 / 神田メソッド

ニセコ
エリア

神田メソッド：他地域での試行



(HRL) 関係者らの活動状況

交通対策事業の例

- ・タクシーニセコモデル実証
- ・パーク&バスライド実証
- ・ワーカーバス実証
- ・AI配車システム実証
- ・タイミー参入
- ・スキーバック共同受け取り

入れ食い状態

懸念

明確なビジョンがないままに新たな技術導入・事業乱立していくと空中分解するのではないだろうか

テコ入れ
MCDC参加WG立ち上げ

ビジョン共有の重要性などを学んだことをきっかけに若手でWGを立ち上げ

空中分解せず密度濃く交通対策の活動を積極的に進めていきたい！

●新幹線倶知安駅開業（時期未定）
●インターチェンジ開通（時期未定）

個別認識

交通課題は既に表出しており関係者も個別各々で課題認識している状況

共通認識

国の調査事業をきっかけに交通課題の実態が整理され公に課題が共有された

交通課題解決に向けて国や民間など多くの主体が事業・実証に乗り出してきた

●有志会 / 2年目メンバー拡大

●有志会 / 視察等活動

●有志会 / 立ち上げ

キャズムがこれから来るMCDCをきっかけに本質化の議論に着手

※有志会：国交省共創人材育成プロジェクトとして2023年度・2024年度に実施。ニセコエリアの観光系ステークホルダーを対象として交通課題解決に関心を持つ有志を募集。オーバーツーリズムによる交通渋滞の解消や将来的な新幹線開業時の大量輸送対策などをテーマに交通と観光の双方を考えることのできる人材育成を狙う。

交通課題
オーバー
ツーリズム

~2021-22

2022-23

2023-24

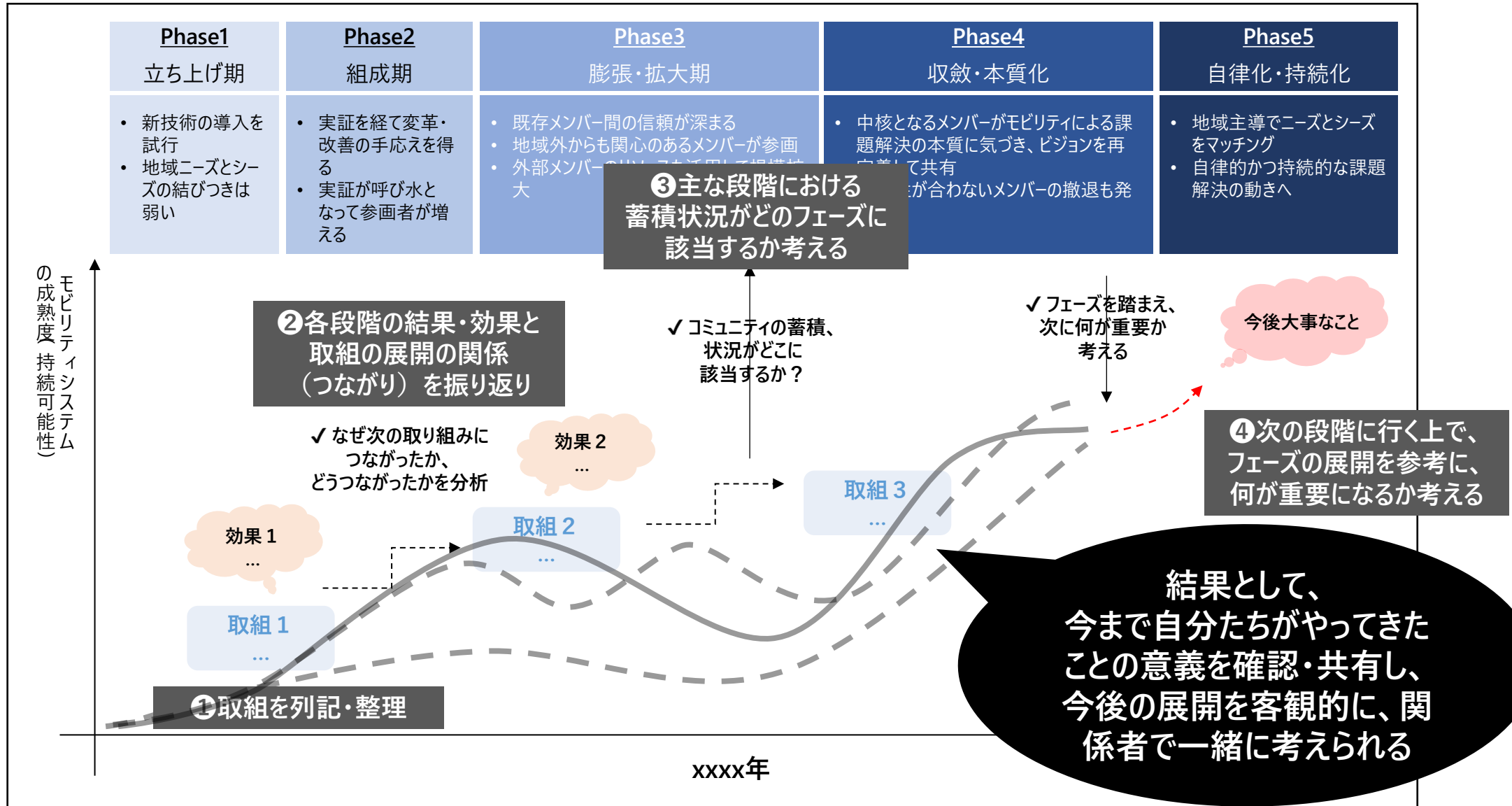
2024-25

イマココ

2025-30

2-3 研究開発の進捗 / 神田メソッド

神田メソッド：コミュニティ分析ツール作成



02 カンファレンス < MCDC* >

問題意識

ひとりで学んで持ち帰っても
コミュニティを動かすことが困難

研究方向性

コミュニティを効果的に育成するために
複数人・組織横断で受講する
チームビルディングプログラムの開発

SiPでの開発内容



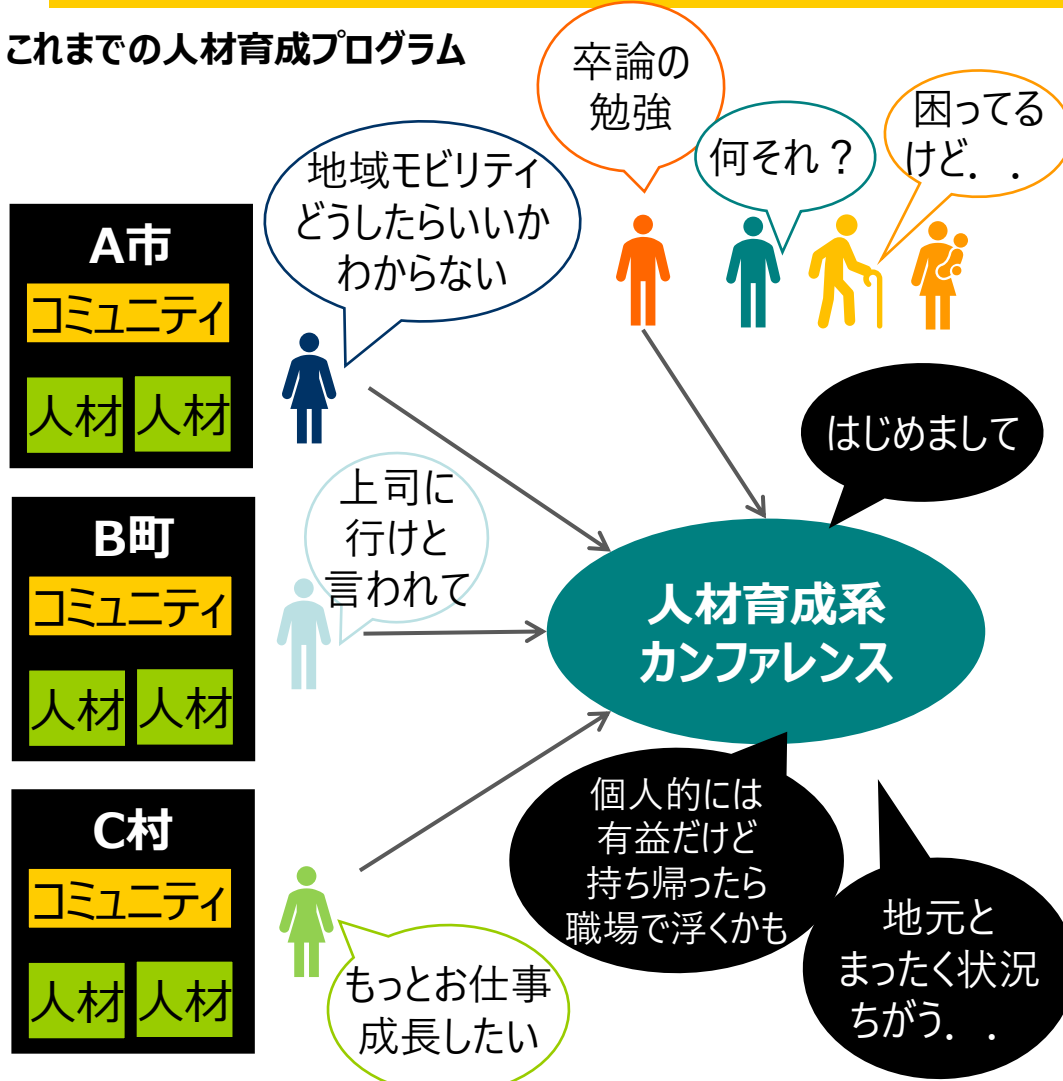
- ・MCDCの試行と検証
- ・次年度MCDCの企画検討

SiPにて
新たにMCDCを
企画・開発

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

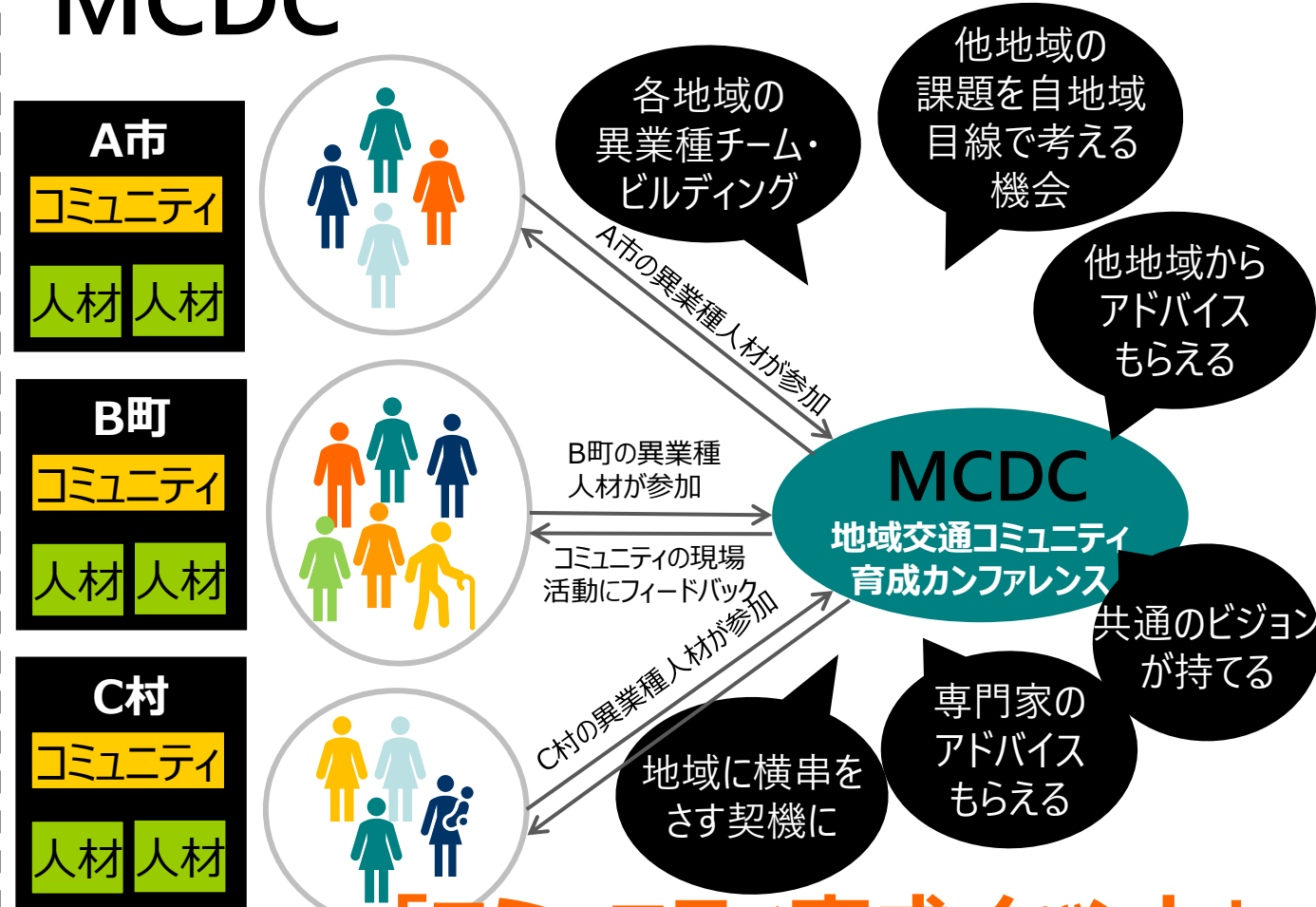
全国カンファレンス：MCDC試行

■これまでの人材育成プログラム



MCDC

■ Mobility Community Development Conference



これまでにない「コミュニティ育成イベント」

例： 交通系自治体職員, 観光系自治体職員, 福祉健康系自治体職員, 交通事業者, 地域の商店主, 住民, 学生

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

チームごとに今後の
コミュニティでの
アクションを考える

全国カンファレンス：MCDC試行

Day 1 (11/5) @ 午前:庄原駅内会議室・現地 午後:ラ・フォーレ庄原

人材育成
コミュニティ
育成

Day 2 (11/6) @ 国営備北丘陵公園 ひばの郷

コミュニティ
育成

9:00-9:10 趣旨・全体説明

9:10 Session 1 庄原地区のこれまでの取り組み

9:10-10:30 庄原のこれまでの取り組みの説明+質疑

10:30-11:30 現地見学

・バス車両, MaaS ステーション, よるくるでよく利用される場所, 市主... 等

12:00-13:00 昼食 (ラ・フォーレ庄原)

13:00 Session 2 参加コミュニティの取り組みと悩みの共有

13:00-13:30 庄原の現在の悩み+討議

13:30-14:15 奥入瀬での取り組み+現在の悩み+討議

14:15-15:00 ニセコでの取組+現在の悩み+討議

休憩

15:15 Session 3 コミュニティ形成論

15:15-16:00 コミュニティ形成の事例

・うさぎ企画 森田創氏

・JR西日本 内藤真也氏

16:00-16:30 全体討議

休憩

17:00 Session 4 庄原包括的データ研究会

18:45- 夕食 (ラ・フォーレ庄原宴会場)

19:30-21:00 Session 5 それぞれのコミュニティの活性化方策①

9:00 ラ・フォーレ庄原ロビー集合(備北丘陵公園へ移動)

9:40 Session 6 それぞれのコミュニティの活性化方策②

9:40-10:00 前日の議論の振り返り, コミュニティの成長論と現在位置の確認

10:00-10:50 改善策の検討

・それぞれのコミュニティの今後のアクションプラン(グループワーク)

10:50-11:15 結果の全体共有、討議

11:15 総括・まとめ

11:20 終了

地元庄原
の取組紹
介

参加者の
悩み共有

コミュニティ
活動実践者
の知恵伝授

庄原定例
研究会

アルコール入り
本音トーク



2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

全国カンファレンス：MCDC試行

<ニセコ>



- **もう少し議論の場が必要**
 - ・かっちりしゃべるより、小さいところから仲間をつくることを考える
 - ・とりあえず、12月16日に今日のメンバーでの会合を実施
 - ・話しやすい行政と民間のメンバーで、飲みながら作戦を練るのは大事
- **少しずつ取組ながら、ビジョン・ミッションを具体化する**
 - ・最終的にはビジョン的なものを
 - ・地域では、「アジアナンバーワン」と言っているがその中身は何なのか不明確
 - ・このような場を通じて、アジアナンバーワンの中身の認識を共有化する

<庄原>



- **人口問題を考える会を振り返る**
 - ・人口問題の会からはじまり、MaaSをはじめ、企業・働く場所の見える化、創業塾、スマート農業、古民家の改修利用等をやって来た
 - ・しかし、観光はDMO・市に閉じた形となり、会議所だけではマンパワー足りない
 - ・人口問題の会の同窓会のような形で、改めて何が必要だったか考えることが必要
- **持続的な運営組織を考える**
 - ・特定の分野に特化せず、横ぐしで、行政主導ではできないことをやる組織が必要
 - ・官民学が出資し、まちづくり会社のような形を作ることが必要
 - ・企業が人材育成も兼ねて人材派遣することも

官民有志で
話す場をつくり、
ビジョンを具体化

行政だけでない
動きを誰かが作っ
ていくことが必要

民と官で連携して
持続的に回していくこと
ができる仕組み構築へ

他地域を参照しながら、
地域単位で課題
を具体化・共有

<奥入瀬>



- **誰かが突破して場をつくる**
 - ・同じ奥入瀬だが、それぞれの取組、あくまで県の取組、という認識が強い
 - ・DMOも、市の予算で動いている面が強い
 - ・もう少し緩く、研究会のような形で、集まって議論する場が必要
 - ・まちづくりが好きな先生等の学を使う、地域に入っているコンサルが自主的に場つくっていくなど、誰かが突破する動きが必要
- **ビジョンを来訪者にも共有できる工夫**
 - ・奥入瀬ビジョンは具体的に共有されていない
 - ・店がビジョンを説明をできるような仕組みづくりも必要

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

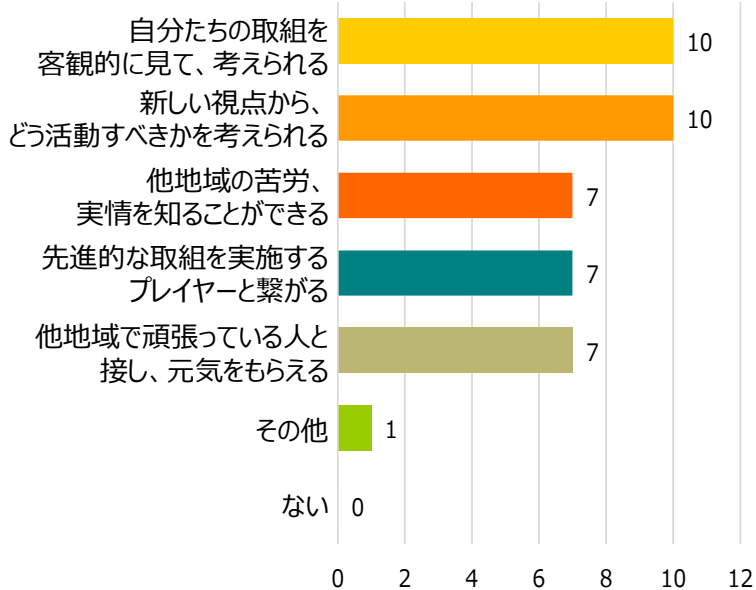
全国カンファレンス：MCDC検証

地域の課題状況を踏まえた組合せが重要

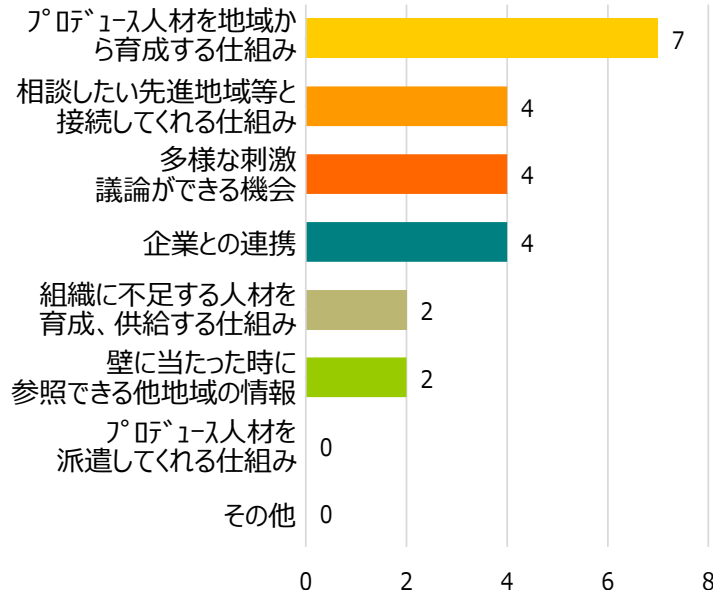
自分の地域コミュニティについて客観的にどうすべきか考えられる機会として高い評価

参加者アンケート

Q. 有効と感じた点



Q. 他地域コミュニティ形成に必要な仕組み



Q. 今後、このような議論の機会・場を設ける場合、どのような工夫をすべきか

- ・他地域の方が自地域の問題、課題に対し、意見、アドバイスをもらえる場は大切だと感じました
- ・各地域の人々が混ざりあって議論する機会がもっと多いと良いと思います
- ・森田さん、内藤さんのような自らの熱意や力で切り開いていった方々の事例
- ・2~3日、もう少し時間をかけて実施したい
- ・取り組み実施の様子も合わせて視察したい

マッチング拡大、工夫をしながら、形態具体化

R6全国カンファレンスの成果

<結果・考察>

- ・地域間でのコミュニケーション、連携を深めていくことは、一定のニーズある可能性
- ・庄原での民間を中心としたコミュニティの取り組みが他地域の刺激に：地域ごとの課題状況にあわせたマッチングを図ることがポイント
- ・レベル・状況が離れすぎると参照、具体が考えにくくなる：先進的な情報での刺激と、地域にあわせた実践のバランスも必要

<今後の展開イメージ>

- ・引き続き、数地域での連携の場づくりを行い、より効果的・持続的な形態を探る
 - ナレッジ（物語、診断ツール等）と連動させながら、評価・参照し、次の展開を促す機会として、機能させる（一定の型化を行う等）
 - 対象地域を拡大させながら、効果的な組み合わせパターンの模索、検証
 - 地域を混ぜたディスカッションの試行
 - 民間事業者、企業等の提案・マッチングの試行 等

2-3 研究開発の進捗／カンファレンス

全国カンファレンス：MCDC結果

SIPの成果が
地域で注目！

庄原市と青森県十和田市の奥入瀬、北海道ニセコ町でそれぞれ地域交通の課題と向き合う関係者の計約20人が、庄原市の国営備北丘陵公園などを会場に意見を交わした。それぞれの地域の実情や対策事例を共有し、解決の糸口を探った。

呉高専の神田佑亮教授(47)「環境都市工学」の呼びかけで11月に開催。庄原市の庄原MaaS検

デマンドバス「よるくる」を走らせた事例を紹介。奥入瀬溪流の旧道を観光

ひざ痛

ひざが痛い・水がたまるガマンしないで、あきらめないで漢方薬をお試し下さい。

サン薬局

三次市十日市東4-1-30
サンラインIF ☎(0824)62-1128
<http://www.kanpou-style.co.jp>

庄原／青森県十和田／北海道ニセコ 交通の問題 解決策探る



各地域が抱える課題の解決策を話し合う参加者たち

取り組み報告や意見交換

討協議会は、市中心部で夜間のタクシーがなくなり、経済界を中心にオン

とも実が...が行政か民間のどちらかに偏っている」と指摘。参加者からは「実際に動く若手同士の交流が必要」「町のビジョンを語り合う場をつくるべきだ」などの意見が出た。庄原MaaS検討協の本平正宏さん(62)は「官民一体で地域をマネジメントする組織の必要性を感じた」と話していた。(菊池諒)

- 本SIP研究課題で、コミュニティ育成手法の試案を構築し、試行実施
 - コミュニティの育成と、そこに参加する自在の育成を同時に図る
- 育成プログラムの成果として、「共通のビジョン定義の重要性」、「官民一体で地域をマネジメントする組織の必要性」を、コミュニティメンバーが共通で認識する効果を与えることが確認。
 - 従来の個人向け研修では気づかない成果

2025年9月予定の

MCDC

モビリティ・コミュニティ・デベロップメント・カンファレンス
では、物語も活用予定

04 カリキュラム マップ

問題意識

どんなプログラムを受講すべきかわからない
(どのレベルの人は何を受けべきか?)

研究方向性

地域交通人材のペルソナ・レベル別に
適切な教育カリキュラムマップを構築

SiPでの開発内容



- ・既存プログラム研究の効果
分類・体系的に整理
- ・カリキュラムマップ素案構築

SiPにて
プログラムの分類を
行い、カリキュラム
マップを検討

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：育成団体調査

● 育成団体調査

調査対象プログラム

- ✓ 下記のA), B)のいずれかを満たす取組み（プログラム・イベント）をHP上で探索的かつ継続的に収集した。
- ✓ A) 地域公共交通をテーマに、定期的開催・実施されている
- ✓ B) (地域公共交通より広い分類の) 都市交通計画をテーマに、定期的開催・実施されていて、地域公共交通をテーマとする回や科目等がある

調査項目

- ✓ 実施されている人材育成事業のプログラムの数と名称
- ✓ 収入：受講料計、公的資金（行政予算、補助金）、民間資金（賛助会員等）、その他
- ✓ 支出：講師謝金、会場費、その他備品、広報費、事務人件費、その他
- ✓ 人材育成事業に関する課題・お困り事
- ✓ 実施されてるプログラム毎に：セミナー名、目的・対象、プログラム（時間割・講師等）、開催日数、実施時期、定員、受講料、開講年

		開催時期	開催期間	参加費	内容	
モチベーションアップ・維持	1	JCOMM	8月	2日	¥3,000	MM関係者が一堂に会した情報共有・意見交換
	2	(公社) 日本交通計画協会 [エッセンシャル・セミナー]	不定期	2～3時間	無料	交通計画に関するトピックを講義形式で
	3	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム	10月	2日	¥3,000	くらしの足に関する課題解決のヒントを得る場
	4	人と環境にやさしい交通をめざす協議会	不定期	1日	¥2,000	相互理解と問題意識の共有を目的とした場
	5	エコモ財団 EST創発セミナー	5月、11月	1日	無料	ESTの実現に向けて講演・パネルディスカッション
	6	IBS MM技術講習	10月	2日	¥12,000	モビリティ・マネジメントの技術講習
	7	再生塾 [基礎編]	5月	1日	¥4,000	持続可能なまちと交通を目指した1dayセミナー
	8	Qサポ	不定期	1日	¥1,000	地域公共交通に関する自由な意見交換
	9	コモゴモ	不定期	1日	¥2,000	他分野の専門家のモビリティ分野への越境を促す
	10	地域交通のキソを学ぶ合宿式セミナー	不定期	2日	無料	明日から何かを始めてみようという気になるセミナー
知識獲得	11	運輸局セミナー	年1～2回	1日	無料	運輸分野における補助制度などの知識を講義
	12	JCoMaaS	通年	2時間	¥150,000	産官学におけるMaaSに関する知の共有
	13	再生塾 [イブニングセミナー]	不定期	2時間	無料	モビリティに関する様々な話題を紹介
	14	再生塾 [技術セミナー]	9月	1日	¥10,000	地域公共交通政策立案のためのデータ分析
	15	再生塾 [議員セミナー]	8月等	1日	¥20,000	地方議員を対象とした地域公共交通政策セミナー
	16	国土交通大学校	8月等	数日	無料?	国道交通省の総合的な研修機関
	17	全国建設研修センター	4月、11月	数日	7万円程度	行政担当者を対象としたテーマ別セミナー
じっくり議論	18	公共交通マーケティング研究会	不定期	数時間		公共交通の課題解決に向けた考え方を適用
	19	地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト	10～1月	190分×8回	無料	
	20	エコモ財団 地域の交通環境対策推進者養成研修会	9月	3日	¥9,000	
	21	再生塾 [アドバンスドコース]	8～12月	5日	¥2,000	
みんなで議論	22	ARC/DC	年1回	2日	無料	

既存の人材育成プログラムを抽出・レビュー

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：仮説カリキュラム・マップ構築

- 研究開発成果の先行ユーザーとして政策決定者（基礎自治体）、政策立案支援者（コンサルタント）、運輸事業者を設定し、既存の人材育成プログラムを効果的に組み合わせた**仮説カリキュラム・マップ**を構築した。

研究開発成果の 先行ユーザー

政策決定者
(基礎自治体)

政策立案支援者
(コンサルタント)

運輸事業者

モチベーション アップ・維持

再生塾[基礎編](5月)

エッセンシャル・セミナー(不定期)

エコモ財団[EST創発セミナー](5、11月)

JCOMM(8月)

くらしの足をみんなで考える
全国フォーラム(10月)

IBS[MM技術講習](10月)

Qサポネット(不定期)

コモゴモ(不定期)

知識獲得

全国建設研修センター
(4月、11月)

国土交通大学校(8月等)

運輸局セミナー(年1~2回)

JCoMaaS(通年)

再生塾[イブニングセミナー]
(通年)

再生塾[技術セミナー](9月)

じっくり議論 見識アップ

エコモ財団[地域の交通環境
対策推進者養成研修会]
(9月)

再生塾[アドバンスドコース]
(8~12月)

地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト(10~1月)

公共交通マーケティング研究会(不定期)

みんなで議論 チームビルディング

MCDC

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：仮説カリキュラム・マップ構築

- 研究開発成果の先行ユーザーとして政策決定者（基礎自治体）、政策立案支援者（コンサルタント）、運輸事業者を設定し、既存の人材育成プログラムを効果的に組み合わせた**仮説カリキュラム・マップ**を構築した。

研究開発成果の
先行ユーザー

政策決定者
(基礎自治体)

交通行政の
経験がない
係長クラス

モチベーション
アップ・維持

再生塾[基礎編](5月)

エッセンシャル・セミナー(不定期)

エコモ財団[EST創発セミナー](5、11月)

JCOMM(8月)

くらしの足をみんなで考える
全国フォーラム(10月)

IBS[MM技術講習](10月)

Qサポネット(不定期)

コモゴモ(不定期)

知識獲得

全国建設研修センター
(4月、11月)

国土交通大学校(8月等)

運輸局セミナー(年1~2回)

JCoMaaS(通年)

再生塾[イブニングセミナー]
(通年)

再生塾[技術セミナー](9月)

じっくり議論
見識アップ

エコモ財団[地域の交通環境
対策推進者養成研修会]
(9月)

再生塾[アドバンスドコース]
(8~12月)

地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト(10~1月)

公共交通マーケティング研究会(不定期)

みんなで議論
チームビルディング

MCDC

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：仮説カリキュラム・マップ構築

- 研究開発成果の先行ユーザーとして政策決定者（基礎自治体）、政策立案支援者（コンサルタント）、運輸事業者を設定し、既存の人材育成プログラムを効果的に組み合わせた**仮説カリキュラム・マップ**を構築した。

研究開発成果の
先行ユーザー

新入社員

政策立案支援者
(コンサルタント)

モチベーション
アップ・維持

再生塾[基礎編](5月)
エッセンシャル・セミナー(不定期)
エコモ財団[EST創発セミナー](5、11月)
JCOMM(8月)
くらしの足をみんなで考える
全国フォーラム(10月)
IBS[MM技術講習](10月)
Qサポネット(不定期)
コモゴモ(不定期)

知識獲得

全国建設研修センター
(4月、11月)
国土交通大学校(8月等)
運輸局セミナー(年1~2回)
JCoMaaS(通年)
再生塾[イブニングセミナー]
(通年)
再生塾[技術セミナー](9月)

じっくり議論
見識アップ

エコモ財団[地域の交通環境
対策推進者養成研修会]
(9月)
再生塾[アドバンスドコース]
(8~12月)
地域公共交通コーディネーター・
プロデューサー養成プロ
ジェクト(10~1月)
公共交通マーケティング研究
会(不定期)

みんなで議論
チームビルディング

MCDC

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：仮説カリキュラム・マップ構築

- 研究開発成果の先行ユーザーとして政策決定者（基礎自治体）、政策立案支援者（コンサルタント）、運輸事業者を設定し、既存の人材育成プログラムを効果的に組み合わせた**仮説カリキュラム・マップ**を構築した。

研究開発成果の
先行ユーザー

中堅クラス
30～40代

運輸事業者

モチベーション
アップ・維持

再生塾[基礎編](5月)
エッセンシャル・セミナー(不定期)
エコモ財団[EST創発セミナー](5、11月)
JCOMM(8月)
くらしの足をみんなで考える
全国フォーラム(10月)
IBS[MM技術講習](10月)
Qサポネット(不定期)
コモゴモ(不定期)

知識獲得

全国建設研修センター
(4月、11月)
国土交通大学校(8月等)
運輸局セミナー(年1～2回)
JCoMaaS(通年)
再生塾[イブニングセミナー]
(通年)
再生塾[技術セミナー](9月)

じっくり議論
見識アップ

エコモ財団[地域の交通環境
対策推進者養成研修会]
(9月)
再生塾[アドバンスドコース]
(8～12月)
地域公共交通コーディネー
ター・プロデューサー養成プロ
ジェクト(10～1月)
公共交通マーケティング研究
会(不定期)

みんなで議論
チームビルディング

MCDC

2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

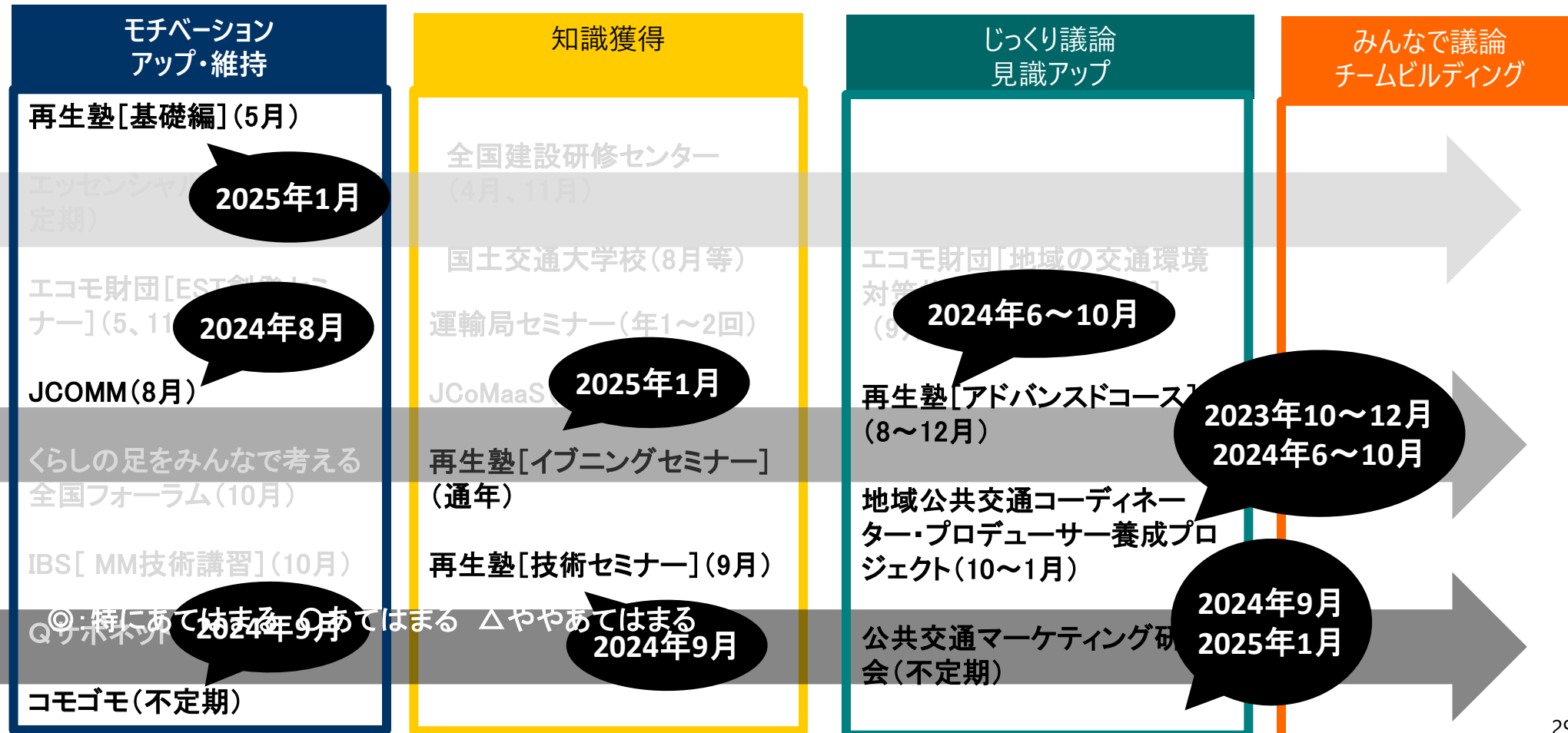
人材育成カリキュラム：仮説カリキュラム・マップ構築

- 地域公共交通政策に関心のある30代男性が、各既存プログラムを、2023年10月～2025年1月にかけて受講することにより、カリキュラム・マップの有効性を検証した

研究開発成果の 先行ユーザー

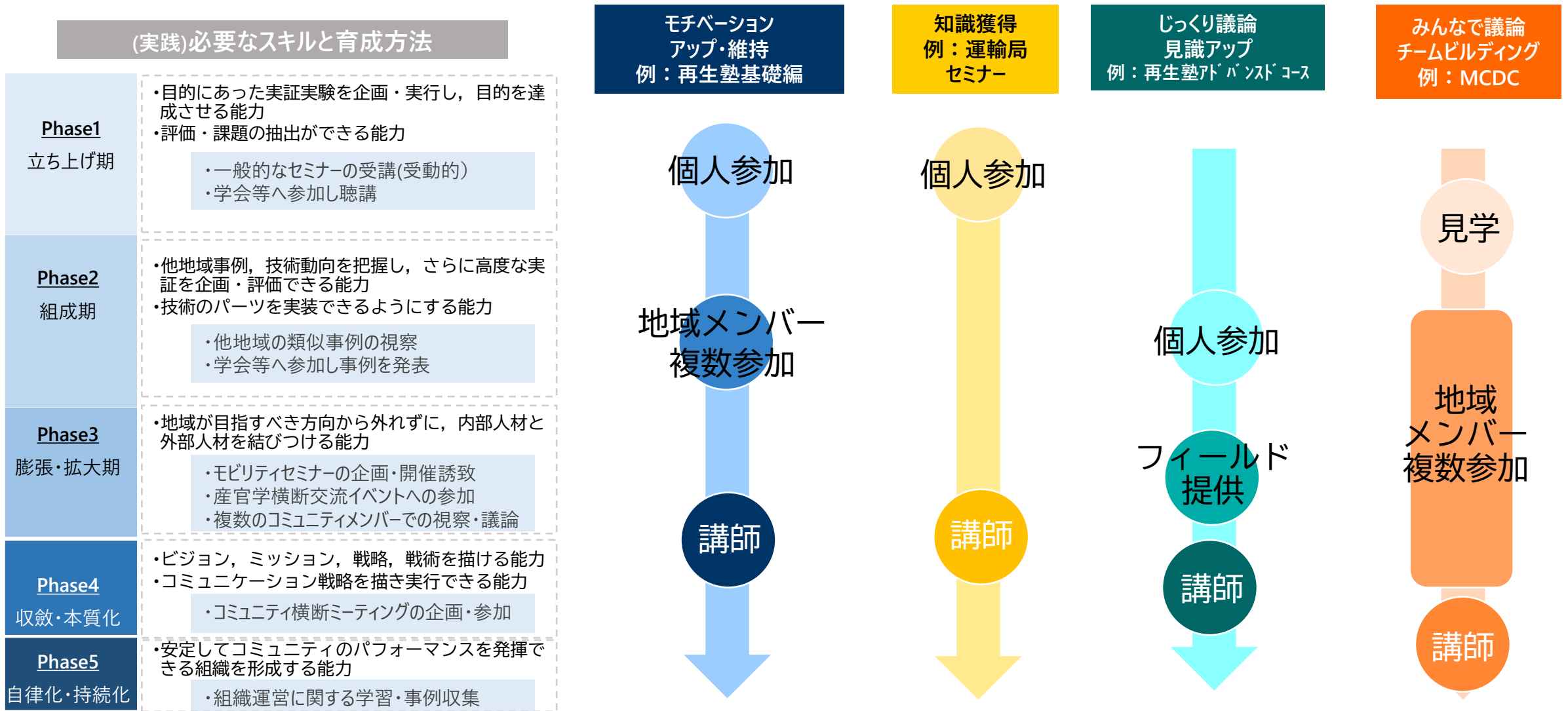


自動車メーカー 30代男性



2-3 研究開発の進捗／カリキュラムマップ

人材育成カリキュラム：神田メソッドフェーズを意識した各プログラムの参加・活用イメージ



※プログラムのバリエーションを踏まえた体系的な整理、全体的な課題・対応方法について今後検討を進める

05

モビリティ知恵袋 (WEBプラットフォーム)

問題意識

適切な教材やツールを見つけられない
(情報一元化や紹介する仕組みが必要)

研究方向性

学習に活用可能な教材・ツール等を
一元管理・共有できるWEBプラットフォーム
を構築

SiPでの開発内容



- ・WEBページを構築
- ・搭載する教材・ツール等を制作、収集（随時）

SiPにて
新たにWebページを
構築、発信中

2-2 研究開発の進捗／ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：HP立ち上げ



① 知ろう・調べよう・楽しもう

- 世界Mobility News 【稼働中】
- 総動員チップス（国外編）【稼働中】 ※IBSコンソ連携
- 総動員チップス（国内編）【R7年度実装】 ※IBSコンソ連携
- モビリティの導入改善やMMの参考となる図書・論文【稼働中】

② 物語を感じて、新たな物語を生み出そう

- 人物にまつわる物語 【稼働中】
- 地域モビリティ物語 【稼働中】

③ ツールを使い実践してみよう

- Mobility Managementツール【稼働中】
- コミュニティ状況診断ツール【R7年度実装】

④ 学ぼう、伝えよう、繋ごう

- セミナー・イベント情報 【稼働中】
- 活用可能な事業 【R7年度実装】

2-2 研究開発の進捗 / ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：HP立ち上げ

① 知ろう・調べよう・楽しもう

世界モビリティニュース 2025年1月



ニューヨーク：「渋滞税」導入で成果、マンハッタン中心部で交通量減少

New York City's Congestion Zone Map
Created by transportation website showing vehicle volume during peak hours

newsdig.tbs.co.jp
NY市「渋滞税」導入で成果、マンハッタン中心部で交通量減少 | TBS CROSS DIG with Bloomberg

(ブルームバーグ)：米ニューヨーク市マンハッタン中心部に乗り入れる車に対して「渋滞税」が1月5日に導入された結果、6～10日の対象区域の交通量が7.5%減少した。マンハッタンに走る大半の主要道路で朝の...

バンコク：バンコクの公共交通、期間限定で無料 タイ政府が大気汚染対策 - 日本経済新聞

www.nikkei.com
バンコクの公共交通、期間限定で無料 タイ政府が大気汚染対策 - 日本経済新聞

【バンコク=井上航介】タイ政府は24日、首都バンコクの全ての公共交通機関の運賃を期間限定で無料にすると発表した。同国では連日による大気汚染が深刻な状況にある。市民の自家用車の利用を減らし、汚染の緩和を...

● 世界Mobility News

ホーム > 総動員チップス (国外編)

総動員チップス (国外編)



2024年12月30日

政府主導のリ・デザインデータ基盤、フランス政府



2025年1月31日

政府主導のライドシェア（相乗り）政策、フランス政府



2025年1月31日

若者向け限定の公共交通乗り放題実験、フランス政府

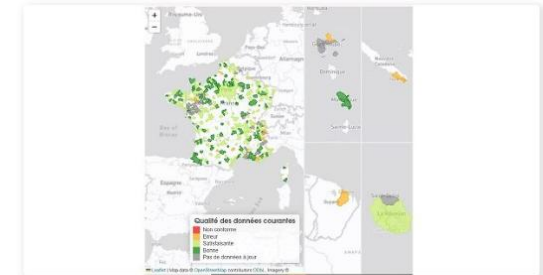


2025年1月31日

都市交通戦略ガイドラインの役割と実践（PDMを中心に）、Cerema（フランス）

● 総動員チップス (国外編)

政府主導のリ・デザインデータ基盤、フランス政府



背景

公共交通や新たなモビリティサービスに関するデータを民間企業が保有するようになったため、世界各国の行政では、施策の検討や検証に必要な情報やデータが不十分になったという不満が高まっています。特にヨーロッパでは、交通や日常生活に関する多くのデータが、GAFAs等に代表される大手IT企業に独占されているのではないかと強い懸念がありました。

そこでEU（欧州委員会）では、2017年5月31日付のマルチモーダル旅行情報サービスの利用可能性に関する規則によって（Le règlement (UE) n° 2017/1926）、モビリティデータを参照する国家アクセスポイント（NAP）を作成することを義務付けました。

このEU規則に従ってフランス政府・モビリティ移行省は、ポータルサイト「transport.data.gouv.fr」をマルチモーダル情報データのNAPIに指定したのです（décret 2020-183）。さらに、2019年に新たに施行されたLOM法（Loi d'orientation des mobilités）の第25条および第27条では、AOM[※]、交通事業者、交通プロバイダー、インフラ管理者がポータルを通じて、旅客情報に必要なサービスやネットワークからのデータを利用できるように義務付けました。

モビリティ移行省のオープンデータ化には、おおきく3つの目的があります。

1. 交通分野のイノベーション推進
IT・定量化により交通分野イノベーションをもちらし、エコシステム・経済活性化につながる
2. ユーザーの利便性向上
ダイヤ・経路案内等の基本的なところから、リアルタイム情報、エコな交通手段の選択を提供する
3. インターコネクションの共通化
様々な交通事業者の情報接続の整合性を図り共通化する

※ IBSコンソ連携

2-2 研究開発の進捗 / ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：HP立ち上げ

① 知ろう・調べよう・楽しもう

モビリティ・マネジメントに関する論文



2025年2月14日

モビリティ・マネジメントにおける動機付け情報の効果に関する研究



2025年2月14日

全市民対象のMMツール開発とその効果-ブランディング及びコストダウンのプロセスに着目して-



2025年2月14日

地方都市でタクシーはバスを補完することができるか? ~市内バス全線定期券保有者へのタクシー初乗無料券配布実験の実証分析~



2025年2月14日

地方都市の路線バスにおけるサブスクリプション型運賃の導入プロセスと効果の実証分析

全市民対象のMMツール開発とその効果-ブランディング及びコストダウンのプロセスに着目して-



淺見知秀, 谷口綾子, 片桐暁, 齋藤 綾, 上原 泰典, 内田直人
土木学会論文集D3特別企画 (土木計画学: 政策と実践), Vol.78, No.6, II_1-II_18, 2022

栃木県小山市では、全市民16.7万人を対象に、コミュニティバスの利用促進のためのブランディングの手法を用いた低コストのモビリティ・マネジメント (MM) を実施した。本研究では、開発したMMツールについて、如何にブランディングしたか、如何にコストダウンを果たしたか、これまで暗黙知として共有されてこなかったツールの制作プロセスを記述することで、MMを実施する際の実務上の留意点、工夫点を明らかにする。加えて、アンケート調査によってMMが市民の意識や行動に与えた影響、定期券の販売データ集計によってMMがバス運営に与えた影響を明らかにする。

土木学会論文集D3(土木計画学), Vol. 78, No. 6, II_1-II_18, 2022.

全市民対象のMMツール開発とその効果 -ブランディング及びコストダウン のプロセスに着目して-

淺見 知秀¹・谷口 綾子²・片桐 暁³・齋藤 綾⁴・上原 泰典⁵・内田 直人⁵

¹正会員 小山市都市整備部 (〒323-8686 栃木県小山市中央町1-1-1)
E-mail: ts18-azumi@city.oyama.tech.jp (Corresponding Author)

地域の物語が自治体職員の地域愛着に与える影響の検証ーかしてつバス導入時の事例ー



谷口綾子, 宮川 雄貴, 石田 東生
土木学会論文集H, 70(1), pp.54-64, 2014

本研究では、2010年8月に開通したかしてつバス導入経緯に着目した物語を整備関係者・利用者へのインタビューより作成し、職員教育の一環として沿線自治体職員にその物語の読了を要請することで、物語が自治体職員の地域愛着に与える効果を把握した。物語の効果計測調査では、物語を読む群、物語と同一の内容を年表にまとめた資料を読む群、統制群の3群を設定し、群間や物語の評価の高低により地域愛着等に差があるかを分析した。その結果、物語を高評価した人はバスへの愛着が高く、バス利用意図も高いことが定量的に示された。さらに、資料群の感想は即物的・個別的の内容に限られたが、物語群の感想は、公共交通の大切さや人とのつながりの大切さといった普遍的な記述が多いことが示され、物語読了の効果を質的に把握することができた。

土木学会論文集H(教育), Vol. 70, No. 1, 54-64, 2014.

地域の物語が自治体職員の地域愛着に与える 影響の検証ーかしてつバス導入時の事例ー

谷口 綾子¹・宮川 雄貴²・石田 東生³

¹正会員 東洋大学国際編成課 システム情報工学研究科 (〒305-8575 茨城県つくば市水戸台1-1-1)
E-mail: itaguchi@irs.k.u-tokyo.ac.jp

²正会員 藤沢市役所 (〒251-8601 神奈川県藤沢市朝日町1-1-1)

2-2 研究開発の進捗／ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：HP立ち上げ

②物語を感じて、新たな物語を生み出そう

私のつまらない履歴書



森川 高行 様（名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所）

略歴：

神戸市須磨区生まれ。1981年に京都大学工学部交通土木工学科卒業。1983年同大学院工学研究科交通土木工学専攻修士課程を修了。1985年米国マサチューセッツ工科大学大学院土木工学科へ留学。1991年名古屋大学助教授、2000年に同大学大学院教授に就任。2014年に名古屋大学未来社会創造機構へ異動し、現在に至る。

<主な著書>

- 「交通行動の分析とモデリング」（共編著）技報堂出版（2002年）
- 「道路は、だれのものか」ダイヤモンド社（2010年）
- 「モビリティイノベーションシリーズ1巻 モビリティサービス」（共編著）コロナ社（2020年）

名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所で地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点長・プロジェクトリーダーを務める森川 高行 先生の生い立ちから、これまでの活躍がまとめられた貴重な資料をお預かりいたしました。モビリティ知恵袋のコンテンツとして公開させていただきます。

再生塾という物語 -持続可能なまちと交通をめざして-



2025年1月作成

著者 片桐 暁

監修 / インタビュー 筑波大学教授 谷口 綾子

編集 / インタビュー / 文字起こし 筑波大学学生 4年 大月 崇義

協力 吉田 泰基

[もくじ \[表示\]](#)

序章 モータリゼーションの行方

モータリゼーションとは、クルマの大衆化や、クルマが日常的に利用される社会状態を指すことばであり、ここ日本においては、1960年代以降に始まり、地方部で現在も続いている。この社会現象を、単にクルマが普及しクルマの台数が増えることと捉えてしまうと、この本質を見誤る。

道路の容量を超えたクルマが流入すると、渋滞が引き起こされる。渋滞に対応するために、さらなる道路

見附市 健幸まちづくり物語 I



健幸まちづくり物語

新潟県見附市の市長たちを主人公として

2024年1月10日発行

著者 片桐 暁

監修 / インタビュー 筑波大学教授 谷口 綾子

編集 / インタビュー / 文字起こし 筑波大学学生 4年 林 凜太郎

[もくじ \[表示\]](#)

『ガチャ万』——商社への憧れと就職

南北に伸びる細長い新潟県のちょうど地理的に中心の位置に、見附というまちがある。県内でもっとも面積の小さい市であるが、平成の大合併の波にも飲まれず独自のまちづくりを選択し、現在に至っているユニークなまちである。

のちに見附市長となり、そうした意思決定にも大いに腕を振るうことになる久住（くすみ）時男は、その

2-2 研究開発の進捗 / ナレッジフィードバックの場・仕組みづくり

モビリティ知恵袋：HP立ち上げ

③ ツールを使い実践してみよう

別所線と太陽エネルギーと塩田ぐらしと



別所線と太陽エネルギーと塩田ぐらしと

別所線が走り、日本でも有数の太陽光発電量を誇る塩田地域。この地域が住みやすく、生活が豊かで、持続可能になるように、住民の声を集める取り組みを行いました。

本冊子では、別所線の魅力や沿線の暮らし、地域のエネルギー活用の取り組みを紹介しています。各ページの内容はアンケートの設問と連動しており、読み進めながら回答することで、地域の現状や未来の可能性をより深く知ることができます。

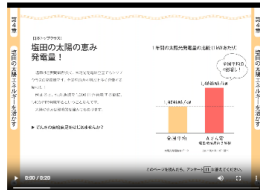
第2章 別所線のこんな魅力



第3章 クルマと別所線



第4章 塩田の太陽エネルギーを活かす



第5章 別所線×太陽エネルギー



● Mobility Managementツール

④ 学ぼう、伝えよう、繋ごう

セミナー・イベント情報

北陸信越局運輸局

- 地域公共交通分野における共創推進シンポジウム
 - 日時：2025年2月26日 13:30～16:30
 - 場所：JA長野県ビル12階B会議室
 - 申込み：<https://questant.jp/q/F0E798R0> ※×切2/21

持続可能なまちと交通をめざす再生塾

- URL：<https://saiseijuku.net/>
- 2025年度 基礎編セミナー
 - 日時：2025年5月 開催予定
 - 場所：調整中
 - 申込み：直近募集開始予定
- 2025年度 アドバンスドコース
 - 日時：2025年9月 開催予定
 - 場所：調整中
 - 申込み：2025年7月頃募集開始予定
- 2025年度 技術セミナー
 - 日時：2025年7月～12月 開催予定
 - 場所：調整中
 - 申込み：2025年5月頃募集開始予定

日本モビリティ・マネジメント会議 (JCOMM)

- URL：<https://www.jcommor.jp/>
- 第20回日本モビリティ・マネジメント会議

● セミナー・イベント情報

2-4 他コンソ・他課題・関係省庁との連携状況

- SIP包摂的コミュニティのTWRコンソと健幸ものがたり構築・共有の仕組みで連携
- SIPスマホIBSコンソとの連携
 - ・チップス集とインタビュー調査同行，文字おこしテキスト共有などの連携を実施
 - ・知恵袋における情報発信の連携

SIPスマホの筑波大ナラティブコンソの「物語」構築と共有の仕組みを，SIP包摂的コミュニティのTWR(つくばウェルネスリサーチ)の研究課題に**応用**し，**見附市物語構築と共有**を行い，研修会の冒頭に使いたい，市民にも周知したいなど，たいへん**好評**を得ている。これらはモビリティ値手袋に掲載予定。



元市長 久住氏

▼健康まちづくりを進める意思が固まった出来事：

たまたま、前市長が進めていたもので**見附で健康教室をやろう**という流れがあって、**それを引き継いだ**んですね。やってみたら、やっている人(健康教室参加者)が非常に楽になったという評価をしてくれました。

見附市健幸まちづくり物語

▼ネーブルみつけの役割が浸透したきっかけ：

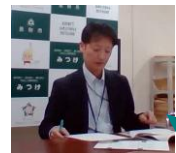
1年間ぐらいの災害の経験の中で、多くの方がネーブルみつけを頼りにしてくれました。親しみを持ってくれたと思うんですね。**1年間必死になって働いて、蓋開けてみたら隣には日々来てくれる市民がいて**。そうやってうちの役割が精査されていったのかな。



まちづくり課 遠藤

▼事業を進める上で達成感を感じること：

やはり、参加されている市民の皆様からのご意見でしょうかね。「**健康に対する意識が変わってより歩くようになった**」だよとか、「**家族にもその話をして家族も含めて健康に対する意識が上がった**」かな」というのは、やはりやってよかったかなと思うところですね。



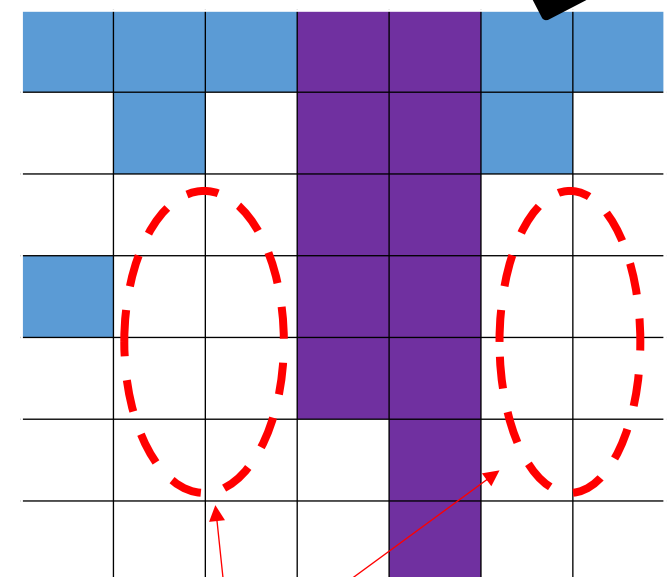
健康福祉課 小林氏



モビリティ知恵袋
での情報連携

IBSチップス

- ・幅広い地域特性での取組
- ・課題分類ごとの取組



ナラティブ
・経緯・因果関係
・フェーズ、局面のポイント
・動かす体制、コミュニティの工夫

ここも推測・解釈？できるように？

2-5 研究開発に対するコンソ外機関等の貢献

研究の協力者

項目	協力者	内容	備考
自動運転社会的受容標準指標構築のための調査対象地	青森県庁・十和田市 日立市・みちのりHD 当別町	アンケート調査に協力	国交省自動車局（地域公共交通確保維持改善事業費補助金） 国交省道路局（路車協調システム及び走行空間の技術的検証を目的とした自動運転実証実験）
自動運転バスエクステリアの検討	国立交通安全環境研究所	エクステリアの検討に助言	内閣府SBIR
物語の構築 （各インタビュー）	再生塾・見附市関係者・その他	インタビュー調査、完成テキスト確認に協力	
必要とされるモビリティ人材分析	JCOMM参加者	アンケート調査回答協力	
人材育成カリキュラム検討	全国の地域人材育成プログラム実施者（16団体22プログラム）	活動状況アンケート調査回答協力、 情報提供	

フィールド展開先

展開先	政策の立案・実行の内容	備考
庄原MaaS検討協議会 （広島県庄原市）	・R6実証実験を踏まえた、振り返りの場づくり、今後の展開の体制についての関係者での議論を展開	国交省 総政局（共創MaaS実証プロジェクト）
奥入瀬十和田利活用協議会 （青森県・十和田市）	・行政だけでない推進体制のあり方について検討を実施	
仮称：ニセコビジョンワーキンググループ （北海道倶知安町）	・官民の有志での意見交換の場づくり、ビジョンについての議論を開始	国交省 総政局（共創MaaS実証プロジェクト）